

2025年 第7回ものづくりチャレンジ大作戦 「革の三角コインケースをつくろう」

現代生活学部 生活デザイン学科

講座の趣旨

今回で第7回目となる一般社団法人ものづくり文化振興協会が主催する本事業は、ものをつくる体験が極めて少ない現代の子ども達に、ものづくりや科学・技術の楽しさ、面白さ、奥深さ、そして大切さを伝え、現代社会を豊かに生活する為に求められる意思決定力、好奇心、探究力、考える力、職業への興味関心を育てることを目的としています。その実現に向け、地域、職人、企業人、教員、学生、生徒などが指導者となり、選ぶ、みる(遊ぶ・観察・小実験・試行)、つくる(製作・試行錯誤・考える)、いかす(遊ぶ・観察・発展・職業)のプロセスを通して、地域の子ども達がより身近にもものづくりや科学・技術に触れられる環境づくりが、この事業の主旨です。

本学からは3講座の講座提供が行われましたが、本稿では町田市子どもセンターまあち会場で生活デザイン学科の学生が革の三角コインケース制作講座に講師として参加したことについて報告します。



講座名	講師	開催日時	開催場所	定員	参加費
革の三角コインケース制作講座	生活デザイン学科 学生	8月10日(日) 10:30～13:30	町田市子どもセンターまあち会場	15名	無料
...



(写真上)三角コインケースの試作見本
(写真左)ものづくりチャレンジ大作戦ポスター
(写真中央)ものづくりチャレンジ大作戦 開催講座一覧

本講座では、生活デザイン学科の学生がこれまでの学びを活かしながら講師となり、低学年の子どもたちも参加できるように安全性や工程を工夫し、革のコインケース作りの講座を運営しました。

これまでの経験から、作品材料や工程を細かく見直して講座内容をブラッシュアップし、参加した子どもたちが革の特徴を学びながら皮革の取り扱いやものづくりの楽しさなどを体験できることを目指して、講座の準備を行いました。

講座の準備

昨年と同様に牛革の三角コインケースを制作することにしましたが、これまでの経験を活かしてより完成度の高い作品を制作するための課題を洗い出し、改善策を検討しました。

①革が厚いと低学年の子どもはプレス機やハサミを動かしにくい。

⇒革の厚さを薄くし、1.8mm→1.5mmへ変更

②プレス機をかけると革が伸び、ボタンの印がずれる。

⇒プレス機をかけた後、型紙で型を取り直し、ボタンの位置を正確につけて三角形にする

③霧吹きでは革の湿潤にムラがあり成型が難しい。

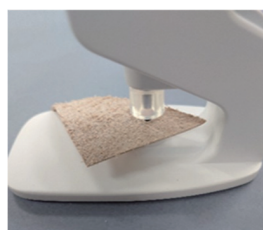
⇒霧吹きによる湿潤→洗面器での浸漬で全体を湿潤する

④革の乾燥が不十分でペンの色がのらない。

⇒ドライヤーを増やすことは難しいため、1回の参加人数を6人→5人へ変更

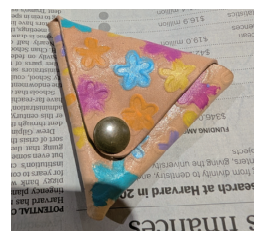
⑤コバ処理の爪楊枝を使用した作業は低学年の子どもには難しい。

⇒へら(木製マドラー)に変更



当日の様子

令和7年8月10日、町田市子どもセンターまあちにて実施しました。1回5名×4回の計20名の子どもたちは、学生の説明を聞きながら、オリジナルのコインケースを制作し、革の取扱いやものづくりの楽しさを体験しました。また皮革についての説明は、パンフレットを配布することで後日に振り返りができるようにしました。学生も改めてものづくりの楽しさを知る機会となりました。



プロジェクト概要

- パートナー
一般社団法人ものづくり文化振興協会
- 担当教員
現代生活学部 生活デザイン学科
助教 佐々木 麻紀子
- 学生
現代生活学部 生活デザイン学科
4年生 1名
- 実施期間
令和7年4月～8月